

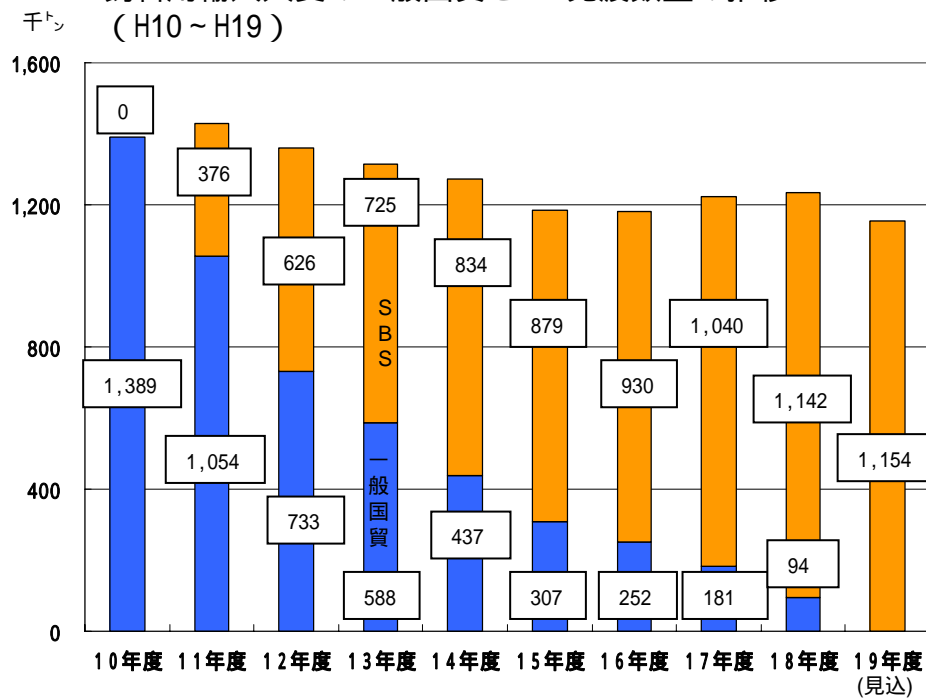
平成20年度飼料需給計画(案)について

平成20年1月
農林水産省

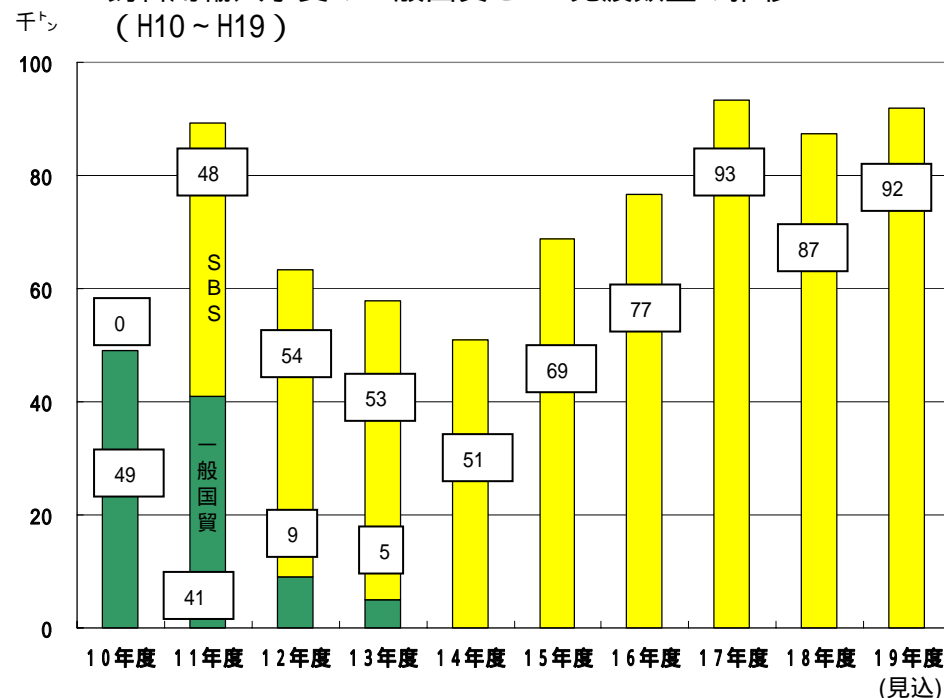
1 飼料用麦の需給・価格の動向

飼料用麦の売渡数量は、大麦については、飼養頭羽数の減少等から減少傾向で推移。平成19年度は115万トンの見込み。
 小麦については、専増産ふすまの代替需要等から、近年は増加傾向で推移。平成19年度は9万2千トンの見込み。
 飼料用麦については、食用麦に先駆けてSBSを導入し、平成19年度からは全量SBS化。
 飼料用麦の買入価格は、豪州の干ばつの影響等により、平成18年度後半より上昇。こうした買入価格の動向を踏まえた買入予算を措置。

飼料用輸入大麦の一般国貿とSBS売渡数量の推移 (H10～H19)



飼料用輸入小麦の一般国貿とSBS売渡数量の推移 (H10～H19)



2 平成20年度の飼料需給計画

平成20年度の飼料用麦の買入・売渡数量は、近年の需要動向等を踏まえ、平成19年度と同数量を設定(大麦:141万トン、小麦20万トン)。

【 平成20年度飼料需給計画 】

(単位:千トン)

区分	平成19年度末 保管数量	買入数量	売渡数量	平成20年度末 保管数量
大麦	0 (0)	1,410 (1,410)	1,410 (1,410)	0 (0)
小麦	0 (0)	200 (200)	200 (200)	0 (0)
計	0 (0)	1,610 (1,610)	1,610 (1,610)	0 (0)

(注1)平成19年度から全量SBSに移行している。

(注2)()書きは、平成19年度の飼料需給計画の数値である。

3 平成20年度の飼料穀物備蓄計画

平成20年度の政府(配合飼料供給安定機構及び政府自ら)が行う飼料穀物の備蓄は、平成19年度と同様に、主要原料(とうもろこし・こうりゃん)の需要量の概ね1ヶ月分である95万トンを備蓄。

このうち、

配合飼料供給安定機構が行う備蓄については、とうもろこし・こうりゃん60万トンを備蓄。

政府が自ら行う備蓄については、備蓄の効率化、米の需給安定対策への協力等の観点から、米35万トンを備蓄(大麦の振替)。

【平成20年度飼料穀物備蓄計画】

(単位:千トン)

区分	期首	積増数量	期末
とうもろこし・こうりゃん	600 (600)	0 (0)	600 (600)
米(大麦の振替)	350 (350)	0 (0)	350 (350)
計	950 (950)	0 (0)	950 (950)

(注1)とうもろこし・こうりゃんは、(社)配合飼料供給安定機構が備蓄保有をしているもの
米は、政府(食料安定供給特別会計)自ら備蓄保有するもの

(注2)()書きは、平成19年度の飼料穀物備蓄計画の数値である。